

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

ここでは、ボリューム ライセンスのお客様から、製品ライセンスについて最もよく寄せられるご質問とその回答をご紹介します。製品ライセンスについて、マイクロソフトのサポート チームに対し最もよく寄せられるご質問を以下にまとめています。

以下の質問は、明記されている場合を除き、マイクロソフト ボリューム ライセンス契約に基づく製品ライセンスを対象としています。小売 (パッケージ) 製品または OEM 製品のライセンス情報については、該当する製品のソフトウェア ライセンス契約の条項を参照してください。さらに情報が必要な場合、あるいはお客様がお持ちの疑問に対する回答がここに記載されていない場合は、マイクロソフト代理店または地域の[マイクロソフト カスタマー サポート センター](#)までお問い合わせください。

全般

製品条項について

製品条項とは何ですか？ また、製品表と製品使用権説明書 (PUR) はどうなりましたか？ ボリューム ライセンス契約には、製品をライセンス、展開、使用方法については製品表と PUR を参照するように記載されています。

[製品条項](#)は、2015 年 7 月から製品表と製品使用権説明書 (PUR) の代わりに提供されています。以前に製品表や PUR に記載されていた内容をまとめたもので、既存の製品の使用条件は実質的に変わりません。2 つのドキュメントを製品条項にまとめ、製品別の構成にしたことで、製品の購入および使用方法がわかりやすくなりました。新しいドキュメントでは、お客様の使用権を損なうことなく契約全体のボリュームが削減されています。

ボリューム ライセンス契約には、製品条項を参照するように記載されていません。この新しいドキュメントは、製品をライセンス、展開、使用方法に対してどのように適用されますか？

[製品条項](#)は、既存のボリューム ライセンス契約に対して遡って適用されます。製品条項には、「お客様のボリューム ライセンス契約における製品表と製品使用権説明書に関する記述はすべて、本製品条項の該当セクションを指すものと」するとの記載があります。製品の展開および使用条件は製品条項でも実質的に変わらないため、既存のお客様は (新しいドキュメントに記載されている製品については) 製品条項をご覧ください。また、お客様の契約書で許可されている場合に限り、2015 年 7 月 1 日より前に提供されていたバージョンの製品の使用については、製品使用権説明書をご覧ください。詳細情報は、[製品条項の説明](#) (PDF、1.67 MB) でもご確認いただけます。

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

すべての情報が1つのドキュメントにまとめられたことは歓迎しますが、製品条項の使用方法がわかりません。

製品条項は製品項目に沿って構成されています。それぞれの製品項目には製品固有の情報が記載されているほか、ドキュメント内の関連セクションのコンテンツ（共通のライセンス条項、ソフトウェア アシユアランスに関する付録など）へのリンクが示されています。各製品項目は、利用可能なプログラム、製品使用条件、使用権、ソフトウェア アシユアランスの条件で構成されています。ドキュメント全体が使いやすいように設計されており、たとえば青色の文字にマウス ポインターを合わせると用語の定義が表示され、ドキュメント内のリンクをクリックすると製品項目外の関連する条件に移動します。

製品条項はどのくらいの頻度で更新されますか？

製品条項は毎月更新されます。毎月更新されることで、使用権と価格表が同じタイミングで提供されるようになりました。

5月に Microsoft Office Professional Plus のライセンスを購入しました。7月に追加でライセンスを購入した場合、ユーザーのソフトウェアの使用権を規定する条件については、ユーザーに割り当てるライセンスに応じて、別々のドキュメントを参照する必要がありますか？

ソフトウェアの使用に対して適用されるライセンス条項は、ボリューム ライセンス契約の条件によって決定されます。場合によっては、契約時点で有効な製品使用権によって、その時点で利用可能なすべてのバージョンと、そのバージョンの契約期間内に購入したすべてのライセンス（特定のライセンスの発注日を問わない）の使用が規定されます。それ以外の場合は、発注時点で有効な製品使用権によって、取得したライセンスに基づくソフトウェアの使用が規定されます。

製品条項が提供される言語を教えてください。

[製品条項は、35 の言語で提供されます。](#)

ダウングレード権

ボリューム ライセンス契約を締結しています。具体的なダウングレード権と、ダウングレードの対象になるバージョンはどこで確認できますか？

ダウングレード権（以前のバージョンの製品を使用する権利）は、すべてのボリューム ライセンス契約の一環として提供されます。ただし、他の製品や他のエディションに移行済みの場合があるので、マイクロソフト製品条項で製品特有のダウングレード パスについて確認する必要があります。

詳細については、[ボリューム ライセンス、OEM 製品、およびパッケージ製品のライセンスのダウングレード権](#) (PDF、830 KB) を参照してください。

ボリューム ライセンス契約で Office Professional Plus 2013 のライセンスを取得済みです。Office Standard 2013 または Office Standard 2010 にダウングレードすることはできますか？

いいえ、できません。ダウングレード権により、マイクロソフト ソフトウェアの以前のバージョンを使用する権利がエンド ユーザーに付与されますが、製品条項で明記されている場合を除き、同時にリリースされたソフトウェアの他のエディションを使用する権利は付与されません。

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

マイクロソフトでは製品ライセンスについて言及する際に、「バージョン」と「エディション」という2つの用語を使い分けています。「エディション」という用語は、通常同時にリリースされる製品ファミリー内の機能的に異なる製品（例: Office Professional Plus 2013 と Office Standard 2013）を意味します。

「バージョン」という用語は、製品ファミリーの異なる世代を意味します。現行の世代 (N) と前の世代 (N-1)、およびそれ以前の世代 (N-2) との間のダウングレード権は、各バージョンの同じ機能エディションに制限されます（例: Windows 10 Pro から Windows 8.1 Pro へのダウングレード）。

ボリューム ライセンスで取得したライセンスをマイクロソフト製品の以前のバージョンにダウングレードする必要があります。以前のバージョンの製品の入手方法を教えてください。

お客様は製品のダウングレード権をお持ちですが、通常マイクロソフト ボリューム ライセンス サービス センター (VLSC) では、製品の現在 (N) のバージョンおよび前のバージョン (N-1) についてのみ、ダウンロードを行うことができます。

ダウングレード権を通じて使用権を取得した以前のマイクロソフト製品の物理メディア (CD/DVD) を既に受け取っている場合は、お客様の責任の元で当該ソフトウェアの以前のバージョンを使用することができます。マイクロソフト ボリューム ライセンスのフルフィルメント情報についてはこちらをご覧ください。

再イメージング権

ボリューム ライセンスのメディアを使用して OEM の PC の再イメージングを行うことはできますか？

はい、できます。その場合、いくつかの条件の適用が必要となります。詳細については、[ボリューム ライセンス メディアを使用したライセンス取得済みのマイクロソフト ソフトウェア製品の再イメージング](#) (PDF、1.10 MB) をご覧ください。

ソフトウェア アシュアランス

Office Professional Plus 2013 をソフトウェア アシュアランスと共に購入済みですが、最近になってソフトウェア アシュアランスの有効期間が満了しました。ソフトウェア アシュアランスのアップグレードの権利の特典に基づいてアップグレード対象となる製品バージョンの確認方法を教えてください。

製品の提供時期については、[マイクロソフト製品条項](#)でご確認ください。

3年ほど前にソフトウェア アシュアランスと共に製品ライセンスを購入しましたが、現在ソフトウェア アシュアランスを更新したいと考えているのですが、最初に製品ライセンスを取得した後で、製品の商標が変更され、名称も変わっています。ソフトウェア アシュアランスと共に購入が必要な新しい製品バージョンに関する情報は、どこで入手できますか？

他の製品または他のエディションに移行した製品の後継バージョンと個別のソフトウェア アシュアランスの移行方法については、[マイクロソフト製品条項](#)でご確認ください。

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

OEM/小売製品ライセンスにソフトウェア アシユアランスを追加できますか？

はい。OEM/小売製品ライセンスに単体でソフトウェア アシユアランスを追加することができます。ただし、この追加は、OEM/小売製品 (FPP - パッケージ製品) ライセンスの購入後 90 日以内に行う必要があります。このオプションは、特定のボリューム ライセンス プログラムを通じて特定の製品についてのみ適用されます。詳細については、[マイクロソフト製品条項](#)をご覧ください。

90 日以内に OEM/小売製品ライセンスにソフトウェア アシユアランスを追加した場合、どのような使用権が適用されますか？

購入後 90 日以内に OEM/小売製品 (FPP - パッケージ製品) ライセンスに対するソフトウェア アシユアランスを取得すると、当該製品のボリューム ライセンス ソフトウェア バージョンをいつでもインストールして使用することができます。このインストールを行った場合、お客様によるソフトウェアの使用には、当該製品の[マイクロソフト製品条項](#)ならびにお客様のボリューム ライセンス契約の条項および条件が適用されます。

第三者による使用

当社には、短期プロジェクトを担当するオンサイトの契約業者がいます。ライセンスを取得したソフトウェアをそのプロジェクトで使用するために、このような契約業者が所有するデバイスに、ボリュームライセンス契約を通じて購入したマイクロソフト製品ライセンス (Office、CAL など) を割り当てることはできますか？

はい。ライセンスがライセンス所有者である企業のために使用される限り、第三者のデバイスにライセンスを割り当てることができます。

ただし、ライセンスを割り当てることのできる頻度は制限されており、一般的にボリューム ライセンス製品のライセンスを 90 日以内に他のデバイスに再割当することはできません。ソフトウェアが契約業者のためにのみ使用され、お客様の組織のために使用されないのであれば、契約業者が独自にライセンスを購入するか、他のタイプの短期のサブスクリプション ライセンスを取得する必要があります。

Windows クライアント オペレーション システム

Windows 10

ボリューム ライセンスを通じて提供される Windows 10 のバージョンはどのようなものがありますか？

ボリュームライセンスでは、以下の Windows 10 エディションが提供されます。

- Windows 10 Enterprise E3 (available per user or per device)
- Windows 10 Enterprise E5 (available per user or per device)
- Windows 10 Pro Upgrade
- Windows 10 Enterprise LTSC
- Windows Virtual Desktop Access (VDA) (available per user or per device)
- Windows 10 Education E3/A3
- Windows 10 Education E5/A5

詳細は、[マイクロソフト製品条項](#)をご確認ください。

ボリューム ライセンス以外に Windows 10 Enterprise を購入できる方法がありますか？

いいえ。Windows 10 Enterprise を購入するには、ボリューム ライセンス契約をご利用いただく必要があります。

Windows Defender Advanced Threat Protection (WDATP) とは何ですか？ WDATP はボリューム ライセンスを通じて購入できますか？

Windows Defender Advanced Threat Protection は、企業ネットワークに対する高度な攻撃をお客様が検出、調査、対処できるようにすることを目的として開発されたサービスです。WDATP は、ボリューム ライセンスを通じて購入していただいた Windows 10 Enterprise E5 でのみご利用いただけます。詳細は、[Windows Defender Advanced Threat Protection](#) にてご確認ください。

製品条項には、ソフトウェア アシュアランス付きの Windows 10 Enterprise や Windows 10 Education に関する記載が見当たりません。これらは現在も購入できますか？

ソフトウェア アシュアランス付きの Windows 10 Enterprise の名称は Windows 10 Enterprise E3 に、Windows 10 Education の名称は Windows 10 Education E3 /A3 に変更されました。名称は変更されましたが、含まれる機能の変更はありません。

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

アップグレード ライセンス

PC 向け Windows オペレーティング システムの「ボリューム ライセンス アップグレード ライセンス」とは何ですか？

マイクロソフト ボリューム ライセンス プログラムでは、Windows デスクトップ オペレーティング システム ライセンスは提供されません。ボリューム ライセンスで提供されるのは、Windows Pro アップグレード ライセンスのみです。マイクロソフト ボリューム ライセンス プログラムで Windows デスクトップ PC オペレーティング システムのアップグレード ライセンスを購入するには、対象となるデスクトップ オペレーティング システムのフル ライセンスを取得し、ご使用のデバイスにインストールしている必要があります。

複数のユーザー/デバイスによるアクセス

Windows Pro または、Windows Enterprise をサーバーのように使用してアプリケーションをホストできますか？

いいえ。Windows デスクトップ オペレーティング システムを "サーバー" として使用することはできません。デバイスの接続は、ファイル サービス、印刷サービス、インターネット インフォメーション サービス、インターネット接続共有、テレフォニー サービスなど、特定の目的についてのみ許可されます。アプリケーションをホストし、複数のデバイスから、または複数のユーザーが同時にアプリケーションにアクセスする場合、サーバー/CAL 製品のライセンスが必要です。詳細については、ボリューム ライセンス簡易ガイドの[マルチユーザー シナリオでの Windows クライアントおよびサーバー オペレーティング システムのライセンス](#) (PDF、1.06 MB)をご覧ください。

ボリューム ライセンス契約に基づいて Windows Enterprise Upgrade のライセンスを購入した後で、Windows オペレーティング システムの複数のコピーをインストールすることはできますか？

[マイクロソフト 製品条項](#)に記載されております通り、ライセンスを取得したデバイスに、Windows オペレーティング システムの複数のコピーをインストールできるのは、Windows Enterprise のライセンスを取得したデバイスが有効な Windows 用ソフトウェア アシュアランスの対象になっている場合だけです。

Windows Enterprise をインストールした PC を使用して、4 つの仮想マシン (VM) を実行しています。この PC の使用中に、他のユーザーがこれらの VM にリモート アクセスすることはできますか？

いいえ、できません。ソフトウェアを使用できるのは一度に 1 人のユーザーだけです。これには、ローミング使用権の使用も含まれます。主要ユーザーがローミング使用権を使用中の場合は、他のユーザーが実際のライセンス取得済みデバイスを使用することはできません。

詳細については、ボリューム ライセンス簡易ガイドの仮想マシンを使用した Windows デスクトップ オペレーティング システムのライセンス (PDF、836 KB) をご覧ください。

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

Rental Rights

PC のレンタル会社から従業員用の PC をレンタルしている場合、Rental Rights ライセンスを購入する必要はありますか。

いいえ。Rental Rights ライセンスは、多数の PC を購入して継続的に所有する PC レンタル会社やリース会社が取得する特別な補足用ライセンスであり、エンドユーザーのお客様向けのものではありません。[Rental Rights の詳細についてはこちらをご覧ください。](#)

Rental Rights ライセンスが必要になるのはどのような場合ですか。

Rental Rights ライセンスは、組織が PC を第三者にレンタル、リース、外部委託するシナリオに対応するものです。Rental Rights ライセンスの対象および対象外となるシナリオの例は以下のとおりです。

Rental Rights が必要なビジネス/サービス

- オフィス機器のレンタルまたはリース
- ビジネス サービス センター (コピー/印刷店など)
- インターネット カフェ
- ホテルや空港内の設置 PC
- 政府機関による共有アクセス

Rental Rights が不要なビジネス/サービス

- ホスティング サービス (Services Provider License Agreement (SPLA)) を通じたマイクロソフト製品のライセンス
- 公共図書館
- 教育機関 (別途適切なボリュームライセンス契約が必要です)
- 社内 (組織内) の共有 PC
- 従来型ファイナンス (例: 購入選択権付きプログラム)
- [マイクロソフト ソフトウェア製品のリースおよびレンタル許諾条件](#) (PDF、795 KB) に規定されている対象リース

ソフトウェア アシュアランスと Windows Virtual Desktop Access (VDA)

ソフトウェア アシュアランスの対象となる Windows のエディションはどれですか?

Windows Enterprise がソフトウェア アシュアランス対象の唯一のエディションとなります。詳細は、[ソフトウェアアシュアランス](#)をご参照ください。

Windows VDA (Virtual Desktop Access) サブスクリプション ライセンスとは何ですか。

Windows VDA は、ソフトウェア アシュアランスの対象とならないデバイスまたはユーザー (「シンクライアント」デバイスや Windows ソフトウェア アシュアランス対象デバイスの主要ユーザーではないユーザーなど) のライセンスをお客様の組織が取得できるよう設計されたデバイス単位、ユーザー単位のサブスクリプション ライセンスです。このライセンスでは、仮想デスクトップへのアクセス権が提供さ

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

れます。デバイス単位およびユーザー単位の Windows VDA サブスクリプションは、マイクロソフト ボリューム ライセンスの Enterprise Agreement および Select Plus、マイクロソフト製品/サービス契約 (MP SA)、Enrollment for Education Solutions (EES) プログラムでご利用いただけます。デバイス単位の Windows VDA サブスクリプションは、Open Value および Open Value Subscription プログラムでご利用いただけます。

Windows Enterprise や Windows VDA をユーザー単位のライセンスで利用することはできますか。

はい。Windows Enterprise per User および Windows VDA per User オプションは、デバイスではなくユーザーにライセンスを付与できます。ユーザー単位のライセンスでは、以下のことができます。

- ライセンスを保有するユーザーの、Windows 7/8/8.1/10 のライセンスが付与されたデバイスおよび、画面サイズが 10.1 インチ以下の Windows タブレットのローカル環境に Windows Enterprise をインストールできます。
- Virtual Desktop Infrastructure (VDI) または Windows To Go を使用して、ライセンスを保有するユーザーの任意のデバイスから Windows Enterprise にアクセスできます。

[Windows Enterprise per User および Windows VDA per User の詳細を確認する。](#)

Services Provider Licensing Agreement (SPLA) を締結しています。SPLA を通じてエンド カスタマーを対象にホスティング サービスとして Windows ベースのデスクトップを提供することはできますか？

現時点では、Windows VDA を対象にした SPLA モデルはありません。第三者のホスティング事業者のデスクトップを利用するお客様は、データセンター内の Windows クライアント仮想マシンにアクセスする各デバイスについて、Windows VDA ライセンスの料金をマイクロソフトにお支払いいただく必要があります。また、ホスティング事業者は、ハードウェアおよびその他のリソースを会社ごとに確実に分離する必要があります (つまり、2 件のお客様が、ハードウェアやストレージなどの同じリソースのセットを共有することはできません)。

リモート アクセス

自宅の PC (Windows Home のライセンスを取得済み) からリモートで会社の仕事用 PC (Windows Pro のライセンスを取得済み) にアクセスするためには、Windows VDA サブスクリプション ライセンスが必要ですか。

いいえ。90 日に 1 回以内の頻度であれば、ライセンスを取得したデバイスを物理的に使用する単一のユーザーをライセンス ユーザーとして指定することができます。ライセンス ユーザーは、リモート アクセス テクノロジを使用して、別のデバイスからライセンスを取得したデバイスにアクセスすることができます。他のユーザーは、異なる時間にリモート アクセス テクノロジを使用して、別のデバイスからライセンスを取得したデバイスにアクセスすることができます。ただし、このソフトウェアと同等またはそれ以上のバージョンのライセンスを個別に取得したデバイスが必要です。

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

デスクトップ

Office 365 ProPlus

Office 365 ProPlus は、ソフトウェア製品としてもサブスクリプション サービスとしても提供されていますが、これらの製品は同一のものでしょうか？

いいえ。どちらも優れた生産性を実現する製品ですが、同じ製品ではありません。これらの製品により、2つの異なる方法で Microsoft Office をご利用いただけます。お客様は、ご自身のニーズに最も合う提供形態を選択することができます。

Office 365 ProPlus は、ユーザー単位のサブスクリプション サービスであり、デスクトップ アプリケーション ソフトウェア製品ではありません。このソフトウェアを使用するには、有効なサブスクリプション を取得する必要があります。サブスクリプションの有効期間中は、最大 5 台の異なるデバイスにソフトウェアをインストールして使用することができます。

永続的な権利は、通常デスクトップ アプリケーション ライセンスに基づいて提供されます。この種類のライセンスでは、お客様は（他のライセンス条件を遵守している限り）ご希望の期間、ソフトウェアを使用する権利を保有することになります。このライセンスは複数のユーザーが使用できる 1 台のデバイスに割り当てられますが、使用できるのは一度に 1 人のユーザーのみです

個人所有のラップトップ デバイスを仕事で会議のときに使用したいと考えています。このデバイスで Office 365 ProPlus を使用する場合に必要なライセンスを教えてください。

Office 365 ProPlus のライセンスをお持ちの場合、最大 5 台のデバイスに Office を展開し、任意の場所で使用することができます。このデバイスは、会社が管理するものでも第三者のデバイスでもかまいません。お客様は、許可される 5 つのコピーのうち 1 つを個人所有のラップトップ デバイスに展開し、自宅やオフィスなど、あらゆる場所で利用することができます。

Select Plus 契約の下で、Office Professional Plus 2010 と Office Professional Plus 2013 の両方を展開しています。自分の Office 365 ProPlus ライセンスの代わりに Office Professional Plus 2013 を使用することはできますか？これらの製品は同一のものでしょうか？

いいえ。Office 365 ProPlus は、ユーザー単位のサブスクリプション サービスであり、Office Professional Plus 2013 のようなデスクトップ アプリケーション ソフトウェア製品ではありません。したがってお客様は、Office 365 ユーザーに提供されるユーザー認証されたソフトウェアを展開する必要があります。

対象デバイス

マイクロソフト製品条項によれば、マイクロソフト デスクトップ アプリケーションで、ライセンス取得済みデバイスの主要ユーザー 1 名が使用する携帯用デバイスに追加コピーをインストールする権利、つまり「携帯用デバイスの権利」を利用できます。Enterprise Agreement で 1,000 を超える Office Professional Plus ライセンスを取得しています。これにより、さらに 1,000 台の携帯用デバイスに Office をインストールするための携帯用デバイスの権利も保有していることになりますか？

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

いいえ。「携帯用デバイスの権利」は、Enterprise Agreement、Enterprise Subscription Agreement、Open Value 全社契約、Open Value Subscription、Campus and School Agreement の条項により「全社契約/全組織契約」のエンタープライズ製品として購入された Office Professional Plus ライセンスには適用されません。

これらのプログラムでは、エンタープライズ製品 (Windows Upgrade ライセンス、Office Professional Plus、Core CAL スイート/Enterprise CAL スイートなど) を購入するには、契約組織のために使用される携帯用デバイスを含むすべてのデバイスを「対象デバイス」としてカウントする必要があります。

詳細は、ボリューム ライセンス契約および[マイクロソフト製品条項](#)を参照ください。

リモート アクセス

自宅の PC から会社の仕事用 PC にリモート アクセスするために、追加の Office ライセンスを取得する必要がありますか？

Office ライセンスが割り当てられた会社の仕事用 PC の 1 名の主要ユーザーであれば、任意のデバイスからその PC にリモート アクセスして Office を使用することができます。該当する仕事用 PC の主要ユーザーでない場合は、リモート アクセスして使用するデバイスに追加の Office ライセンスを取得する必要があります。

マイクロソフト製品条項には、ネットワーク デバイス上でデスクトップ アプリケーション ソフトウェアを使用できると書かれています。これにはどのような意味があるのでしょうか？

ネットワークの使用に関する条項により、リモート デスクトップ サービス (もしくは同様のテクノロジー) もしくは VDI (Virtual Desktop Infrastructure)、またはその両方を使用して、ネットワーク サーバー上でソフトウェアを実行し、ライセンス取得済みデスクトップからリモート アクセスして使用することができます。ネットワーク上の Office などのアプリケーションにアクセスするには、Office ソフトウェアがローカル デバイスにインストールされていない場合 (たとえばローカル デバイスが「シンクライアント」デバイスである場合) も、各リモート アクセス デバイスについてライセンスを取得する必要があります。

Windows Server リモート デスクトップ サービス (RDS) を利用したアクセスを目的として、ネットワーク サーバー上に Microsoft Office をインストールしました。また、リモート デスクトップ サービスのユーザー クライアント アクセス ライセンス (CAL) を従業員の人数分取得しました。従業員が任意のデスクトップ/シンクライアント デバイスから Microsoft Office にアクセスできるようにしたいと考えています。このような環境で Microsoft Office のライセンスを適切に取得するには、どのようなライセンスが必要でしょうか？

Microsoft Office のライセンスは通常デバイス ベースのライセンス モデルを通じてのみ取得できます。このため、リモート デスクトップ サービスを利用して Microsoft Office にアクセスするデスクトップ/シンクライアント デバイスごとに、個別の Microsoft Office ライセンスを購入する必要があります。Microsoft Office のライセンスは、デスクトップ間で共有して同時に使用することはできません。また、Office 2007 リリース以降においては、リモート アクセス用としてネットワーク サーバー上に展開できるのは、通常ボリューム ライセンスを通じて入手したライセンスのみです。VDI のシナリオにも同じルールが適用されます。サーバー上の仮想デスクトップで実行する Microsoft Office へのリモート アクセ

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

スに使用する各デスクトップ/シン クライアント デバイスごとに、個別の Microsoft Office ライセンスが必要です。詳細については、[Windows Server リモートデスクトップサービスを使用した Microsoft デスクトップ アプリケーション ソフトウェアのライセンス](#) (PDF、238 KB)をご参照ください。

ライセンス取得済みデバイスでの複数コピー

ソフトウェア アシュアランス契約の有効期間が残る PC 上で、Windows Enterprise と共に 4 つの仮想マシン (VM) を実行しています。ボリューム ライセンス契約で購入した Office Professional Plus 2010 ライセンスを 1 つ使用して 4 つの仮想マシンそれぞれに Office スイートをインストールすることはできますか？

はい。ライセンス取得済みデバイス上には、任意の数のコピーおよび任意の以前のバージョンをインストールできます。Office のこの使用权に、ソフトウェア アシュアランスは必要ありません。

サーバー

CAL の要件

Windows Server 2012 R2 で Exchange Server 2013 および SQL Server 2012 を実行しています。それらすべてのクライアント アクセス ライセンス (CAL) の必要条件は同じでしょうか？

いいえ。CAL の必要条件は、サーバー製品によって異なります。一般的なルールとしては、サーバー ソフトウェアにアクセスするデバイスまたはユーザーごとに CAL を取得して割当を行う必要があります。ただし、一部の製品においては、この条件に対して製品固有の例外が適用される場合があります。

たとえば、Exchange Server 2013 の場合、サーバー アクセスが Active Directory を使用して直接または間接的に認証される場合を除き、CAL は必要ありません。Windows Server の場合、サーバーにアクセスするすべてのユーザーまたはデバイスについて CAL が必要になります。CAL は同じエディションまたはそれ以降のエディションである必要がありますが、Windows Server 2012 R2 については、サーバーへのアクセスに Windows Server 2012 CAL を使用することができます。

さまざまなサーバー製品ごとの CAL の必要条件の詳細については、[マイクロソフト製品条項](#)をご参照ください。

追加 CAL は、サーバー ソフトウェアの特定のエディション (Standard Edition や Enterprise Edition など) のみで使用できますか？ それとも、すべてのエディションで使用できますか？

追加 CAL では通常、すべてのエディションのサーバー ソフトウェアにアクセスできます。たとえば、Exchange Server 2010 と Exchange Server 2013 は、Standard Edition と Enterprise Edition の両方で利用可能です。Exchange Standard CAL および Exchange Enterprise CAL は、このサーバー ソフトウェアのどちらのエディションでも使用できます。

詳細については、ライセンス簡易ガイドの[ベースおよび追加クライアント アクセス ライセンス \(CAL\)](#) (PDF、1.60 MB)」をご覧ください。

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

追加のリモート デスクトップ サービス (RDS) CAL は、サーバー ソフトウェアの特定のバージョン (Windows Server 2012 や Windows Server 2012 R2 など) のみで使用可能なのですか? それとも、すべてのバージョンで使用可能なのですか?

CAL のバージョンは、アクセス先のサーバー ソフトウェアのバージョンに対応していなければなりません。古いバージョンの CAL は、新しいバージョンのサーバー ソフトウェアで使用できません。ただし、新しいバージョンの RDS CAL は、[RDS および TS CAL の相互運用性マトリックス](#) (英語) に規定するとおり、古いバージョンのサーバー ソフトウェアで使用することができます。

この規則の唯一の例外は、R2 サーバー リリースです。古い CAL は、サーバー ソフトウェアの新しい R2 リリースで機能することがあります。たとえば、新しい Windows Server 2012 R2 RDS CAL は必要ないので、現行の要件では、Windows Server 2012 R2 サーバー上の RDS へのアクセスに必要なのは、少なくとも 1 つの Windows Server 2012 RDS CAL となっています。

会社 B は、会社 A の関連会社 (ボリューム ライセンス契約で定義される) です。会社 A がサーバーにアクセスするために、Select 契約を通じて購入した CAL が存在します。これらの CAL を使用して、会社 B が Open License を通じて購入したサーバーにアクセスすることはできますか?

はい、できます。お客様が購入した CAL により、お客様またはお客様の関連会社がライセンスを取得したサーバーにアクセスすることができます。その他の組織がライセンスを取得したサーバーに、お客様が購入した CAL でアクセスすることはできません。

サードパーティのテクノロジー (Citrix XenApp、Citrix XenDesktop、Ericom PowerTerm WebConnect、Quest Virtual Access Suite、GraphOn Go-Global など) を使用して Windows Server 上で VDI を利用する場合、リモート デスクトップ サービス (RDS) CAL は必要ですか?

はい、必要です。RDS CAL は、サーバー ソフトウェアのグラフィカル ユーザー インターフェイスを直接または間接的に扱うために使用するすべてのテクノロジーで必要です。これには、マイクロソフトのリモート デスクトップ サービスや、Windows Server でマルチユーザー シナリオを可能にするその他のサードパーティ ソフトウェアの使用が含まれますが、それらに限定されるものではありません。

マルチユーザー環境を実行していなくても、リモート デスクトップ サービス ゲートウェイなどのリモート デスクトップ サービスの機能を使用している場合、RDS CAL は必要ですか?

はい、必要です。RDS CAL は、Windows Server のリモート デスクトップ サービスの役割に含まれるいずれかの機能を使用する場合に必要です。たとえば、Windows クライアント オペレーティング システムにアクセスするために個々の PC/仮想デスクトップ上で RDS ゲートウェイまたは リモート デスクトップ Web アクセスを使用している場合、RDS CAL と Windows Server CAL の両方が必要です。

詳細については、ライセンス簡易ガイドの [Windows Server 2012 リモート デスクトップ サービスのライセンス](#) (PDF、238 KB) をご覧ください。

ユーザーまたはデバイスが Windows Server を実行するサーバーにインターネット経由でアクセスし、認証はサードパーティ製認証アプリケーション (非マイクロソフト ベースの認証) によって行われる場合でも、ユーザーまたはデバイスには Windows Server CAL (外部ユーザーに対してはエクスターナルコネクタ ライセンス) が必要ですか?

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

はい、必要です。Windows Server を実行するサーバーによりユーザーまたはデバイスが認証その他の方法によって個々に識別される場合は、そのユーザーまたはデバイスに Windows Server CAL が必要です。具体的な Windows Server CAL の要件は、[マイクロソフト製品条項](#)に定義されています。

マルチプレキシング

SQL Server またはそのコンポーネント (Reporting Services など) のサービスまたは機能にアクセスするか、それらを使用する場合は、常に SQL Server CAL が必要になると認識しています。それでは、ユーザーがレポートの投稿 (定期的なスケジュールでの既定の情報投稿) を行い、他のユーザーがそのレポートを単純に HTML ファイルまたは Web サイトで表示する状況ではどうでしょうか? こうしたユーザーは、表示されている内容に手を加えることはできません。このレポートからの情報が HTML 形式で他のユーザーに表示される場合に、それらのユーザーに SQL Server CAL は必要ですか?

はい。ユーザーがそのデータにアクセスできるようにする処理がすべて自動化されている場合、この使用はマルチプレキシングのシナリオと見なされ、SQL Server CAL (またはコア単位のライセンス) が必要になります。マルチプレキシングによって、必要な Microsoft ライセンスの数が減ることはありません。エンドユーザーは、製品へのアクセスが直接であるか間接的であるかにかかわらず、適切なライセンスを保有している必要があります。サーバー、ファイル、データ、または自動処理プロセスにより利用可能になるサーバーから提供されるコンテンツにアクセスするすべてのユーザーおよびデバイスに、CAL が必要です。

ただし、SQL Server によって作成された HTML ファイルを誰かが手動で Web サイトにアップロードまたは送信する場合、SQL CAL は必要ありません。詳細は、ライセンス簡易ガイドの[マルチプレキシング \(多重化\) — クライアント アクセス ライセンス \(CAL\) の要件](#) (PDF、983 KB) をご覧ください。

エクスターナル コネクタ (EC) と SPLA の比較

サーバーにアクセスする外部ユーザー (お客様の従業員でもオンサイトの契約業者でもないユーザー) が存在します。エクスターナル コネクタ (EC) ライセンスを取得するか、Services Provider License Agreement (SPLA) を通じてこれらのユーザーのライセンスを取得するかを、どのように決めればよいでしょうか?

エクスターナル コネクタ (EC) ライセンスは、外部ユーザーがアクセスする個々のサーバー CAL の代替となるものです。そのサーバーへのアクセスの目的があくまでもライセンス所有者のため (外部ユーザーのためではなく) である場合に限り、1 台のサーバーに割り当てられた 1 つの EC ライセンスにより任意の数の外部ユーザーによるアクセスが可能になります。こうした条件を満たす使用でない場合、そのアクセスはホスティングと見なされ、ライセンスの取得には SPLA を選択する必要があります。

製品ライセンスについてよく寄せられるご質問

マルチテナント

私は SPLA を締結しているホスティング プロバイダーです。SPLA に基づいてライセンスを取得した仮想化環境でゲスト ユーザーにライセンスを供与するために、エンド カスタマー自身が保有するライセンス (マイクロソフト ボリューム ライセンス契約を通じて取得した SQL Server、Exchange Server またはその他のサーバー アプリケーションなど) を使用することはできますか？

はい。エンド カスタマーが、対象となるサーバー アプリケーションのライセンスを取得した製品について有効なソフトウェア アシユアランスを保有している場合、エンド カスタマーは、SPLA 仮想環境で当該アプリケーションを実行するためにその対象ライセンスを使用することができます。エンド カスタマーが使用する仮想環境は、そのカスタマー専用のものでなければならず、別途ライセンスを取得した他のエンド カスタマーと共有することはできません。また、エンド カスタマーにホスティング サービスを提供する SPLA パートナーは、認定モビリティ パートナーでなければなりません。

詳細は、[ソフトウェア アシユアランスによるライセンス モビリティの Web ページ](#)をご覧ください。

特殊なサーバー

インターネット Web ソリューションまたは High Performance Computing (HPC) ワークロードを実行するために Windows Server を使用しています。これらのワークロードにアクセスする際に、CAL は必要ですか？

いいえ。Windows Server では、インターネット Web ソリューションや High Performance Computing ワークロード (これらのワークロードの定義については、[マイクロソフト製品条項](#)をご参照ください) にアクセスするために、ユーザーまたはデバイスが Windows Server CAL を保有している必要はありません。サーバー ソフトウェアへの他のアクセスについてはすべて、ユーザーまたはデバイスごとに CAL が必要になります。

© 2018 Microsoft Corporation. All rights reserved. マイクロソフトはこのドキュメンを情報提供目的のみします。明示または黙示にかかわらず、この内容に関してマイクロソフトはいかなる責任も負わないものとします。ソフトウェア アシユアランスの利用資格は、地域やプログラムによって異なり、また、予告なしに変更となる場合がございます。マイクロソフト ボリューム ライセンス プログラムにおけるお客様の権利と義務について完全に理解するには、ボリューム ライセンス契約の契約条件をご覧ください。(2018 年 6 月発行)